令和6年度秋田地域保健医療福祉協議会 部会報告事項要旨

2. 献血推進部会

【前提】献血推進部会の所掌事項について、秋田市保健所が所管する地域に関する事項は除かれます。(男鹿市・潟上市・南秋田郡の献血事業の推進等を協議する場)

(1) 日時・場所

令和7年2月27日(木) 15時～16時20分
秋田地域振興局福祉環境部大会議室

(2) 出席者

委員15名(全17名)、赤十字血液センター2名、事務局7名
部会長 佐々木範明 委員 (一般社団法人男鹿潟上南秋医師会長)

(3) 内 容

1) 令和6年度の献血実施状況について

- 管内の2月27日現在の400mL献血の実績は、目標885人に対し879人の協力があり、達成率が100.7%であること、市町村別には男鹿市、五城目町、八郎潟町、井川町が目標を達成している一方、潟上市、大潟村が目標を達成していないが、令和5年度に比べ達成率が増加していることを報告した。
- 今年度、管内で献血の表彰を受けた者は、県知事感謝状が1団体、献血100回知事表彰を受けた個人が5名、献血50回保健所長感謝状を受けた個人が7名であったことを報告した。

2) 令和7年度の献血実施計画について

- 令和7年度の管内における400mL献血の目標人数は1,050人となり、令和6度から3人増加し、献血バス配車台数は今年度同様25台であること、1日当たりの目標人数は41.9人から42人に微増となることを説明した。
- 令和7年度の400mL献血の市町村別の目標は、男鹿市が294人(献血バス7台)、潟上市が336人(同8台)、五城目町が126人(同3台)、八郎潟町が84人(同2台)、井川町が84人(同2台)、大潟村が126人(同3台)としたことを説明した。

3) 赤十字血液センターからの情報提供

- 秋田県における献血者の推移、年齢別献血者数の推移についてのデータを示し、現在の献血者が概ね50歳～69歳で占められており、16歳～29歳の献血者数が著しく減少しているため、若年層の献血普及が必要であることを説明した。
- 今後高齢化により必要とされる献血の需要量は増加することが見込まれる一方、少子化による献血者の減少が予測されること、若年層啓発の一環として「献血セミナー」を活用し、献血の重要性、大切さを伝えることで献血率の向上と血液安定供給を目指していきたいこと、セミナーの申込みは随時受け付けており、時間や場所も調整するので是非活用してほしいことを情報提供した。
- 令和8年1月より、血液センターのシステム変更により、現在の献血カードが使用できなくなること、カードに変わる「ラブラッドアプリ」の登録を勧めていること、アプリ登録をすることにより事前予約、事前問診や血液検査結果の確認が可能となることを説明した。

<出席委員からの主な意見>

- 現在献血を実施している事業所が特定されてきているため、新たな献血者の啓発が必要と考える。(行政関係者)
- 学生向けの献血セミナーについて養護教諭と連携して活用を検討したい。(教育関係者)
- 献血の実施時間を工夫するなどにより、献血者の増加が期待できる。(事業所関係者)
- コロナ禍以前は、周辺事業所からの献血協力者も多かった。今後、そのような事業所へ再度協力を依頼することにより、献血者の増加が期待できるのではないかと。(事業所関係者)